

フィラリアは、猫にも
感染します！

1
10匹

10匹に1匹の猫が
フィラリア幼虫に感染していた
という報告があります。

犬糸状虫抗体保有状況・地域猫における抗体陽性率11.0%(東京都世田谷区・品川区・国立市・千葉県浦安市)、一般家庭飼養猫における抗体陽性率11.5%(新潟県三条市・見附市) 出典:佐伯 英治 Clinic Note No.55:34, 2010

猫のフィラリア症は、犬より重篤な症状や

突然死を招くこともあるにも関わらず、

他の病気と似ていたり、確定診断が難しいため、

見逃されがちな病気です。

しかし猫のフィラリア症は、正しい知識をもって

きちんと予防すれば**確実に防げます。**

投与日カレンダー

①	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
②	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
③	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
④	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑤	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑥	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑦	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑧	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑨	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑩	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑪	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>
⑫	月	日	/投与	<input type="checkbox"/>

◀投与が済んだら印をつけましょう

●途中で予防薬の投与を止めたり、忘れてたりないようにしましょう

●最後までしっかりと予防薬を投与しましょう

地域によって蚊の活動期間が異なるので、かかりつけの獣医師の指導のもとに
しっかりと予防を続けてください。

詳しくは当院にご相談ください。



壱岐動物病院

〒811-5117

長崎県壱岐市郷ノ浦町田中触989-1

TEL 0920-47-6767

<https://1013.jp>



ゾエティス・ジャパン株式会社 〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-7

CA-1602-016-PP-520-01 C01151

1か月に1回の予防を!

猫の
フィラリア症

犬だけの
病気
じゃない!



え!?
どうしたら
いいの??

飼い主の
皆さまへ

猫のフィラリア症は、 とにかく**予防**がとっても大事！

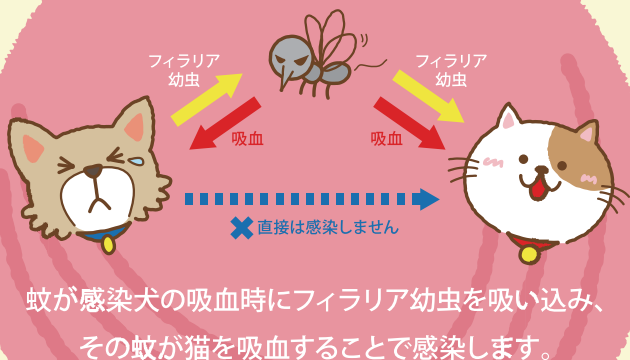
いつ蚊に刺されるか、その蚊がフィラリア幼虫を持っているかはわかりません。しかし、予防をしっかり続けていれば安心です。

どうしよう、
気づかないうちに
感染している
かも…

からまってとれないし…



感染経路



おもな症状

- 呼吸困難や咳※
- 嘔吐
- 食欲不振
- 体重減少 など



おもな症状としてみられる「咳」が猫喘息と誤解されることも。さらに、感染してもほとんど症状がでない猫もいます。

悪化するとまれに**突然死**を招きます。

※猫のフィラリアによる咳や喘息などの呼吸器関連の症候群は HARD (Heartworm Associated Respiratory Disease=犬糸状虫随伴呼吸器疾患) と呼ばれ、予防の必要性が啓発されています。

メカニズム

ほとんどのフィラリアは成虫になれず幼虫のまま血管内で死滅します。この幼虫の死骸に対する免疫作用や幼虫が血管内につまって症状が現れます。

まれに成虫に発育したフィラリア成虫は、肺・心臓に寄生します



猫は、具合が悪くても見た目には分かりにくいので
日頃から注意してあげましょう！

Q. 完全室内飼育なら安心？

「室内飼いだから大丈夫」は
大まちがい！

完全な室内飼育でも感染しないとは言いきれません。室内でも蚊が入れば**感染リスク**が充分にあるので、確実な予防を続けることが大切です。

蚊の少ない北海道やマンションの10階での感染報告も!! 油断できません。



Q. どうやって予防したらいいの？

1カ月に1回の予防薬を投与!

これが最も安全で確実な方法です。経口薬が苦手な場合は、背中に垂らす**スポットタイプ**の予防薬もありますので、かかりつけの獣医師にご相談ください。



Q. 夏だけ予防すれば大丈夫？

予防薬の「通年投与」が理想!

フィラリア症の予防薬は、感染したフィラリア幼虫に作用するお薬です。そのため、最低でも**蚊の発生1ヵ月後～終息の1ヵ月後**までの予防が必要です。しかし、蚊の活動期間が伸びているという報告もあるため、年間を通しての予防が理想とされます。

地域により蚊の活動期間が異なるので、かかりつけの獣医師に相談しましょう!